週刊ウイングトラベル WING TRAVEL WEEKLY
昭和44年6月10日 第3種郵便物認可
No. 2362 増刊号 2016.12.19
毎週月曜日発行：1部324円（消費税込）1年間12,960円（消費税込） ●国土交通省交通運輸記者会加盟
発行所/航空新聞社 The WING Aviation Press ●〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階 ●TEL 03-3796-6646 FAX 03-3796-6645

オーストラリア特集

# 「絶景大陸オーストラリア」

総論

# オーストラリア政府観光局、中沢祥行新日本局長に聞く
# ステークホルダーと協調し、リピーター開拓や新観光素材訴求

**12月1日付でオーストラリア政府観光局の日本局長に中沢祥行氏が就任した。これまでに中沢氏は旅行会社や航空、ホテル業界でさまざまなポジションを歴任するなど、観光関連業界での豊富な経験をもとに日本市場の一層の成長を目指していく考えだ。就任にあたり、オーストラリア観光プロモーションへの意気込みを聞いた。**

ここ最近の日本人のアウトバウンド市場は人口減少、高齢化などもあり、非常にチャレンジングなものとなっていると感じている。そうした中でこれからの海外旅行商品は質の高い物が選ばれることになるのではないかと思っている。

今後さらに日本人観光客を伸ばしていくためには、航空会社、旅行会社、大使館、州政府観光局といったステークホルダーのパートナーとの協調が重要だ。航空会社との関わりでは日豪間の座席数上積みを実現するために、日系航空会社はもとより、地方からのアクセス向上を図るために第三国経由の航空会社へのアプローチも強化していく必要があると考えている。

旅行会社に対しては、販売客層が多様化する中で、それぞれの会社にフィットした情報をタイムリーに提供していきたい。また、州政府観光局や大使館も非常に重要なパートナーなので、今まで以上に情報共有を緊密化し、ハイブリッドな関係でありたいと考えている。

今後のプロモーション方針としては、オーストラリアの魅力をしっかりと体験してもらえるような取り組みを進めていきたい。現在、弊局がキャンペーンを行っている食やワイン、水辺の体験のほか、都市観光など多種多様な観光資源を再発見してもらえるよう、ガイドブックのような情報をメディアを通して訴求していく。バラエティに富んだ観光資源をPRしていくことで、若年層へもアピールし、リピーターも増やす仕掛けを作っていきたいと考えている。

本国からは、大きなミッションを与えられている。非常にチャレンジングではあるが、これからの仕事を楽しみにしている。是非、ステークホルダーの皆さんと一緒にオーストラリア観光を盛り上げていきたいと思っている。

# 「絶景大陸 オーストラリア」キャンペーン始動
## 水辺の風景や海洋生物との触れ合い体験を訴求

**オーストラリア政府観光局では、9月1日より「絶景大陸 オーストラリア」キャンペーンをスタートさせた。これは2010年から展開している「私のイチオシ キャンペーン」の一環で、オーストラリアの海や湖、河などの景観と水辺での体験を訴求するもの。同局のウェブサイトを中心に、メディアとのタイアップ、交通広告、SNSでの展開に加え、販売店でのプロモーションや視察旅行の実施、無料オンライン学習プログラム「オージー・スペシャリスト・プログラム」の強化などで旅行会社への対応も強化している。**

### 世界クラスの海が旅行先の鍵に

オーストラリア政府観光局が2012年から実施している調査によると、「旅行先決定の鍵となる要素」として4位と5位に「世界クラスの美しい自然環境」と「世界クラスの美しい海岸線、ビーチ、海洋生物」がランクイン。水辺の風景やそこでの体験に高い関心があることが見てとれる。さらに、「オーストラリア旅行における最大の魅力」についての回答は、「海洋生物」が全体の47%を占めて第1位。3位が40%で「ビーチ・海岸線・港」となっているのだ。

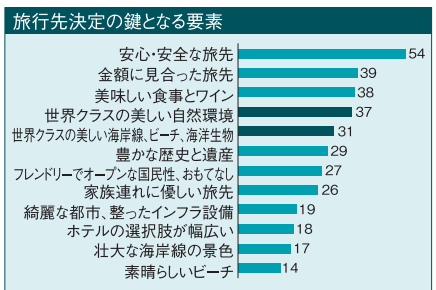
そもそもオーストラリアは周囲を海に囲まれた大陸であり、沿岸には珊瑚礁やビーチ、ハーバー、内陸には湖や河、渓谷などが美しい自然環境を創っている。日本市場においても、世界遺産のグレート・バリア・リーフやシドニー・ハーバーなどは高い訴求力が認められており、一年を通して旅行商品の定番だ。水辺の風景や体験に関する期待値は、旅行前の41%から旅行後の56%へと15%上昇しているデータもあり、実際の満足度が高いことも示されている。

### リアルなプロモーション映像で体感

この度の「絶景大陸 オーストラリア」キャンペーンは、2014年にスタートした「美食大陸 オーストラリア」キャンペーンに続くもの。2016年から4000万A$を投じてグローバルに展開しているキャンペーン「Aquatic and Coastal」を日本マーケット向けの名称にアレンジした。

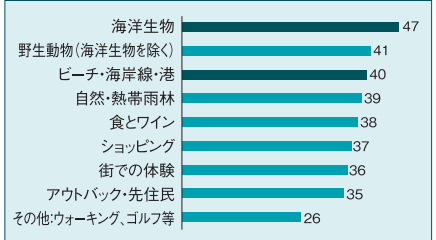
具体的には、オーストラリア政府観光局のウェブサイトでプロモーション映像を公開。「見るだけでない。心で感じる、オーストラリア」をコンセプトに、17カ所の水辺のシーンが美しい映像と音楽で綴られている。ナレーションを務めるのは、同局のグローバル大使を務めるオーストラリア人のハリウッド俳優、クリス・ヘムズワース氏。また、VR（バーチャルリアリティ）技術を駆使した360度動画アプリも制作し、よりリアルな水辺の体験を提供している。このページでは、プロモーション映像に取り上げられている水辺の風景や体験のいくつかを紹介していこう。

旅行先決定の鍵となる要素




※オーストラリア政府観光局
消費者調査より2015年に世界11ヵ国で13,200名を対象に実施。

オーストラリア旅行のおける最大の魅力




※オーストラリア政府観光局
消費者調査より2013年に世界11ヵ国で13,200名を対象に実施。

## オーストラリア、水辺の絶景と体験

### Sea

#### Coral Reef & Beach

最も広く知られているオーストラリアの海といえば、クイーンズランド州の世界遺産、グレート・バリア・リーフだろう。全長2300kmにおよぶ珊瑚礁群のなかで人気が高いのは、74の島々で構成されるウィットサンデー諸島の一つ、ハミルトン島だ。この場所を拠点にすれば、上空からハート型のサンゴ礁、ハート・リーフやホワイトヘブン・ビーチの絶景を望むことができる。特に真っ白なパウダーサンドと海の青が織り成す風景は息を飲む美しさ。プロモーション映像でも一隻のボートがホワイトヘブン・ビーチを疾走していくシーンが印象的に捉えられている。

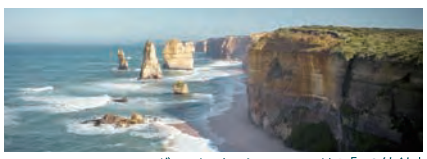
ホワイトヘブン・ビーチの絶景

オーストラリアでビーチといえば、南北42kmに渡って続くゴールド・コーストも知名度が高い。観光の中心はサーファーズ・パラダイスで、真っ直ぐに伸びる海岸線と林立するビル群のパノラマは他に類を見ない。お勧めは、ひと際目を引く高層ビルQ1リゾート&スパの77階にあるスカイポイント展望台。ビーチはもちろん、ゴールド・コースト全体を一望のもとに見渡せる絶景スポットとなっている。また、サーファーズ・パラダイスは名前の通りサーファーの聖地。日本語インストラクターのもとでサーフィンレッスンを受けたり、本格的なダイビングに挑戦したり、さまざまなマリンスポーツも楽しめる。

真っ直ぐに続くゴールドコーストのビーチ

#### Coast & Bay

ビクトリア州の水辺といえば、真っ先に挙がるのはグレート・オーシャン・ロードだろう。トーキーからアランスフォードまでの約260kmの道は、“世界で最も美しい海岸道路”といわれるほど。ここでは絶景を望むドライブを楽しみたい。観光のハイライトはポート・キャンベル国立公園の奇岩群「12使徒」や海岸線が複雑に入り組んだロック・アード・ゴージ。ハイセンスなプチホテルやB&Bに宿泊し、ウォーキングを楽しんだり、ご当地名物のシーフードを味わうのもお勧めだ。



グレート・オーシャン・ロードの「12使徒」

ワイングラス・ベイ

海の美しさを堪能しながらウォーキングを満喫するなら、タスマニア州のワイングラス・ベイもいい。ここはフレシネ半島に位置するフレシネ国立公園の外海に面した湾。美しく弧を描くビーチがワイングラスのように見えることからこの名が付いた。一番人気は所要時間2～3時間の初心者向けハイキングコース。展望台でワイングラス・ベイを望み、ビーチを歩くコースになっている。

#### Marine life

オーストラリアの海では、海洋生物と泳ぐスポットも人気だ。南オーストラリア州のベアード・ベイでは、野生のアシカと泳ぐツアーが催行されている。一説にアシカはイルカよりも人に慣れやすいとか。場所はエアー半島の西に位置しているので、宿泊するのがお勧めだ。新鮮なシーフードが楽しめる南端の街ポート・リンカーンや半島の内陸部にあるガウラー・レンジ国立公園と併せてツアーを組みたい。

アシカと泳ぐ（ベアード・ベイ）

ジンベイザメと泳ぐ（ニンガルー海洋公園）

海洋生物と泳ぐツアーといえば、西オーストラリア州のニンガルー海洋公園も知られている。州北部に位置する同公園は全長260kmに及ぶニンガルー・リーフの一角で、毎年4～6月、この一帯にジンベイザメがやってくる。最長18mの巨体にもかかわらず、その性格はいたっておとなしいのが特徴だ。ジンベイザメを求めて世界中からダイバーが集まってくるが、クルーズでジンベイザメを見に行くツアーもあるのでノンダイバーでも気軽に参加できる。

表紙写真提供：上段／左からクイーンズランド州政府観光局、ニュー・サウス・ウェールズ州政府観光局　中段／左から南オーストラリア州政府観光局、西オーストラリア州政府観光局、タスマニア州政府観光局（©Roaring 40°Kayaking）
下段／ノーザンテリトリー政府観光局、ビクトリア州政府観光局

## Harbor

趣のあるトール・シップのクルーズ

シドニー・ハーバーの絶景はクルーズで

ニュー・サウス・ウェールズ州のシドニー・ハーバーは世界三大美港の一つ。大都市シドニーを懐に抱く風光明媚な港で、世界遺産のシドニー・オペラ・ハウスやシドニー・ハーバー・ブリッジが水辺に映えている。ここでは、海の上からこの大都市を眺めてみたい。港では1850年代に活躍したトール・シップ（帆船）や最新の豪華客船によるクルーズが、朝から夜まで運行されている。ランチやディナーのブッフェクルーズはもちろん、短い時間を活用できるモーニングクルーズやトワイライトクルーズもお勧め。発着のサーキュラー・キーを少し離れただけで、高級住宅地やボタニックガーデンの緑に癒される優雅な時間を過ごすことができる。

## River

マレー・リバーのクルーズ

世界で航行可能な川としては3番目に長いマレー・リバー。オーストラリアの3つの州を流れるこの川は主にニュー・サウス・ウェールズ州とビクトリア州の州境を流れ、南オーストラリア州を横断して海へと注ぐその距離は全長2520km。現地の人々はこの川を泊まりながら移動できるハウスボートで旅することが多いという。

旅行者ならゆったりとした川の流れに身をまかせるクルーズがお勧め。ビクトリア州ならメルボルンから最も近いエチューカを基点にするといいだろう。19世紀の半ばから後半にかけて栄えた港町で、貨物船として活躍した外輪蒸気船でクルーズが楽しめる。南オーストラリア州なら、アデレードから車で約1時間のマレー・ブリッジからクラシックな外輪船のクルーズツアーが催行されている。

## Valley

キャサリン渓谷をカヌーで散策

ノーザンテリトリーの北部、トップ・エンドといえばカカドゥ国立公園が有名だが、急流と渓谷が織り成す壮大な景色が魅力のキャサリン渓谷も見逃せない。この渓谷は太古の砂岩が何百万年も浸食されて生まれたもので、砂岩の崖、壮大な滝、緑濃い多雨林など変化に富んだ景観が魅力。この大自然のスケールを体感するなら、カヌーが最適だ。左右に迫る切り立つ断崖や滝の迫力に圧倒される忘れ難い体験になるだろう。アボリジニの壁画を見学するなら、トレッキングにトライするのもお勧め。数時間から数日間までさまざまなコースが用意されている。

なお、ダーウィン発着の1日ツアーに参加すれば、観光スポットのエディス・フォールに立ち寄り、2時間の渓谷クルーズを楽しんで、高級魚バラマンディーを味わうツアーも用意されている。

## Island

ロットネスト島の足は自転車

西オーストラリア州の州都パースの沖合に浮かぶロットネスト島は、パースやフリーマントルからフェリーでアクセスできる自然の島。島全体がA級の自然保護指定国立公園になっていて、独特の生態系が守られている。

この島は車の乗り入れが禁止されているので、ツーリストの足は自転車だ。澄み渡る海やビーチに立ち寄りながら約40㎞の周囲をひと周りすれば、ブロッコリーの形をしたティーツリーや春のワイルドフラワー、野生の有袋類クォッカに会えるだろう。また、海から島の自然や海洋生物を観察できるボートツアーも随時催行。オットセイやアザラシ、イルカ、季節によってはクジラを間近で見ることができる充実の内容となっている。

# オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）
## 9月にはパースにアジアのスペシャリストが集結

**オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）はオーストラリアについて学べる無料のオンライン学習プログラムだ。オーストラリア政府観光局は昨年、同プログラムをリニューアル。旅行会社の企画、販売、営業に必要なコンテンツを増やし、スマートフォンやタブレットに対応するなど使い勝手を改良した。また、アジア各国のスペシャリストが集うワークショップと視察ツアーの大規模なイベントも開催し、スペシャリストの輪が世界規模で広がっている。**

### 空き時間に効率よく

オーストラリアについて勉強したいと思っていても、「研修に参加する時間がない」、「勉強方法がわからない」といった人は多いはず。オーストラリア政府観光局のASPなら、空いた時間に効率よく学べるのでそんな人にぴったりだ。

昨年のリニューアルで大きく変わったのは、学習時間の確保が容易になったこと。スマートフォンやタブレット端末を使うことで、通勤時間や休み時間など日々の空き時間に学習を進めることが可能となった。また、学習プログラムは自動的にセーブされるので、途中から再開できるのもうれしい機能だろう。

学習プログラムは3つの必須プログラムを最初に受講。続いて、15のプログラムから2つ以上を選択し、5つ以上を完了するとオージー・スペシャリストに認定される仕組み。担当部署や企画に合わせ、豊富なプログラムを選べるのもASPの特徴だ。

また、サイト内には便利マップ、モデル日程、基本情報、画像／動画ギャラリー、現地イベント情報などの資料も充実。使い易さや飽きさせないデザインで、学習のモチベーションを維持できるのも魅力となっている。

プログラム一覧

| 必須プログラム | 州別プログラム | 目的別プログラム |
|---|---|---|
| オーストラリアの販売 | クイーンズランド州 | アボリジニ文化体験 |
| オーストラリアの見どころ | ニュー・サウス・ウェールズ州 | ウォーキング、トレッキング体験 |
| オーストラリアの旅程 | ビクトリア州 | ゴルフ体験 |
| | 西オーストラリア州 | ワイナリー体験 |
| | ノーザン・テリトリー | グルメ体験 |
| | 南オーストラリア州 | ラグジュアリー・ロッジ体験 |
| | タスマニア州 | 絶景大陸オーストラリア |
| | キャンベラ首都特別地域 | |

### スペシャリストが集うイベントも

オージー・スペシャリストに認定されると、認定バッジがもらえるほか、現地ツアーやホテルなどの特別価格（特典）が受けられる。また、主要都市や各店舗・支店ではASP専門セミナーや勉強会を実施しており、去る9月には、アジア各国のオージー・スペシャリストが集結したイベント「コロボリーアジア2016（Corroboree Asia 2016）」が西オーストラリア州のパースで開催された。中国、香港、韓国、シンガポール、マレーシア、インド、インドネシアなどから総勢300名が集まり、日本からは25名が参加。100以上の現地サプライヤーと3日間に及ぶワークショップを行った後は、パースもしくはゴールドコーストへの研修旅行に参加し、有意義な時間を過ごした。

ASPに関する不明点やサポートの問い合わせは下記の担当者まで

オーストラリア政府観光局
オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）
担当:岩崎 良太
TEL:03-5218-2568

### スペシャリストに聞く!

近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社
中部営業本部
大名古屋ビルヂング プレミアム旅行サロン
**矢島祥子**さん

#### スペシャリストとして現地を視察

9月に実施された「コロボリーアジア2016」に参加するため、7月からASPを始めました。当店は予約制の店頭店舗なので、接客と接客の合間に少しの時間をみつけて取り組むようにしました。プログラムを1つ終了すると公式ウェブサイトやSNSのリンクに飛べるのでパソコンの「お気に入り」がどんどん増えましたが、それも接客に役立っています。スペシャリストになるまでは2週間弱でしたが、全プログラムを修了してこそスペシャリストだと思うので、今後もASPの勉強は続けていきます。

初オーストラリアとなったコロボリーでは、ワークショップで100以上のセラーさんに会い、さまざまな情報を得ることができました。ポストツアーではロットネスト島が印象に残っています。地元の人々にとって人生で何度も訪れる身近な場所であることや野生のクォッカの"笑顔"を本当に見ることができて感動しました。

株式会社日本旅行
天王寺支店
**石井要**さん

#### オーストラリア全体の特徴がクリアに

新規路線の就航や増便でオーストラリアは今後も伸びていくと思い、6月にASPを始めました。仕事が忙しいので自宅のパソコンで取り組みましたが、クイズ形式になっていたりビジュアルが多用されていたりして、勉強という堅苦しさはなく進めることができました。シドニーやケアンズといった人気の観光地は日頃から情報に触れているので、選択プログラムは南オーストラリア州と西オーストラリア州を選択。広大な国ですが、どこにどんな見どころがあるのかよりクリアになりました。

オーストラリアはパッケージツアーの販売が多いのですが、スケルトンタイプのツアーも少なくないので、最新情報やイベント情報は接客に役立っています。今後はノーザン・テリトリーやワインのプログラムに興味があるのでその辺りから進め、できれば来年3月までにすべてのプログラムを制覇したいと思っています。

# ゴールドコースト 消費者向けキャンペーンを実施

Love Stories

クイーンズランド州政府観光局は、ゴールドコースト観光局と共同で消費者向けキャンペーンを実施する。キャンペーン期間は17年2月1日～3月31日までの2カ月間。狙いはゴールドコーストの認知度向上で、ビーチ以外の具体的イメージに欠ける弱点の克服を目指し、ゴールドコーストで楽しめる体験内容を具体的に訴求する。

主ターゲットは45歳以上のミドルエイジ・カップルと、25歳～35歳のハネムーンを控えたカップル。両ターゲットに対しての共通コンセプトは「Love Story from Gold Coast もう一度、ふたりの物語をつくる旅ゴールドコーストへ」とし、45歳以上対象には「Create Your Love Story 気持を伝え、ふたりの絆を強くする旅へ」、25歳～35歳対象には「Unravel 6 Love Stories ゴールドコーストを舞台に織り成す6人の不思議なラブストーリー」をそれぞれキャンペーンサイトに掲載する。いずれも新アイデアに基づき、SNS効果を取り込む構成だ。

「Create Your Love Story」は、相手への気持ちを伝えるメッセージをWeb上で作る過程を通して、ゴールドコーストの魅力に気づかせるという仕掛け。キャンペーンサイトを訪れた消費者がいくつかの選択肢を選んでいくと、最終的に2人の想い出作りに最適な目的地や宿泊先、レストランが提案される。最後に相手に一番伝えたい気持ちを選択肢から選べば、自動的にメッセージが完成し、フェースブックやツイッターなどのSNSで送信できる。相手は愛情こもるメッセージとゴールドコースト旅行への誘いを受け取ることになる。

「Unravel 6 Love Stories」は、ゴールドコーストを舞台にした7つの短編物語により、話題作りを行うキャンペーン。物語を通して、「ゴールドコーストが愛の絆を深める場所」にふさわしいとの印象を与えるのが狙いで、書き手には新進気鋭の人気作家を起用する。ストーリー展開は、観光スポットが印象付けられるよう工夫される。

# おすすめ!体験型イベント
## マラソン&サイクリング

Marathon&Cycling

海外旅行のモチベーションとして、今人気を集めているのがスポーツ・サイクリング。マラソンに続く人気コンテンツとして注目だ。

クイーンズランド州ではブリスベン／ゴールドコースト間の100kmを走る「Brisbane to Gold Coast Cycle Challenge」（主催:クイーンズランド自転車協会）が行われている。毎年10月の開催で、16年大会には6000人が参加。州内最大の自転車関連イベントだ。

2017年は10月15日（日）の開催で、約1万人の参加を見込む。主催者側は日本からの参加者も積極的に誘致したい考えで、エントリー開始予定の来年6月中旬までには日本語による大会サイトの開設も計画中。クイーンズランド州政府観光局も、公式サイト内の自転車関連ページからリンクを貼り、日本からの参加促進を後押しする予定だ。

ブリスベン市サウスバンクからゴールドコースト市サウスポートまでを結ぶ100kmコースの他、途中スタートの60kmコースも用意されている。全体的に走行しやすいコース設定で疲れが出る終盤25kmは完全に平坦なコース。最後の10kmは海や運河など水辺を走る快適なルートで、ゴールドコーストならではの景観を楽しみながら走れる。本格派から初心者まで楽しめるよう平均走行スピードを自己申告でき、時速25km以下、時速25km～30km、時速30km以上の3カテゴリーを選択できる。

レース前はゴールドコーストからスタート地点まで参加者と自転車を運ぶチャーター列車を運行し、レース後はゴール地点からブリスベンまで帰るバス便も運行するため、ブリスベンとゴールドコーストのどちらを宿泊拠点に選んでも問題ない。

2016年大会は日本メディアも取材しており、雑誌「Tarzan」（711号／2017年1月26日号）で大会の様子が紹介される予定で、日本における知名度も、今後は徐々に高まっていくと思われる。
http://b2gc.bq.org.au

### 「ゴールドコースト・マラソン2017」は12月にエントリー開始

海外旅行との相性がいいスポーツ・イベントの筆頭はマラソン大会。日本からの参加者も多いゴールドコースト・マラソンは、第39回目を迎える2017年大会が7月1日（土）・2（日）に開催される。フルマラソンだけでなく、ハーフマラソン、10kmラン、5.7kmチャレンジ、4kmジュニアダッシュ、2kmジュニアダッシュ、車椅子マラソン、車椅子15kmマラソンと多種目が用意され、参加者を幅広く募れるのが強みだ。

2017年大会のエントリーは2016年12月6日（火）より開始した。
http://gcm.jp

# ハミルトン島でバギー・ドライブを楽しむ

Buggy drive

グレートバリアリーフのアイランドリゾート、ハミルトン島では電動バギーをレンタルして島内のセルフドライブを楽しめる。

ハミルトン島は実はセルフドライブの天国。理由は島内が一般車両の乗り入れを制限しており、乗用車や大型トラックなどが走らない道を、安心してドライブを楽しめるからだ。ただし使用するのはゴルフカートとしても使われている電動バギー。最高時速20kmでゆったりとしたドライブを楽しむ。ただし私有地であるゴルフ場と違い島内道路は公道扱いのため運転免許が必要。日本の運転免許証（または国際免許証）を提示すればレンタル可能で、簡単な講習を受けて交通ルールや運転方法の説明を受ければ運転スタートとなる。

島内には、青く輝くグレートバリアリーフの絶景を眺められる複数の展望ポイントや、島内の高台から島を見渡せるヒルトップ展望エリア、コアラを抱くこともできるミニ動物園「ワイルドライフハミルトンアイランド」といった観光スポットがあり、それらを結ぶドライブルートも整備されている。これらの観光スポットを自分のペースで移動しながら島の魅力を満喫するのがバギー・ドライブの醍醐味だ。

また日本語で案内してくれる有料のバギー観光に参加するのも選択肢のひとつ。毎日午前と午後の計2回実施されており、リーフビューホテルの正面玄関からスタートする。参加者はそれぞれ自分のバギーに乗車して、日本語スタッフが乗車する先頭車にコンボイ（連なる形）を作って付いて行く。参加者には手作りのアイランドマップを配布し、お勧めポイントを紹介している。

バギー・ドライブはMICEのチームビルディングにも活用できる。人気プログラムは「バギーラリー」で、クイズの答えを探して島内をドライブする。4人1台のチームを作り、約20問のラリークイズに挑戦するプログラムだ。なお島内には多数のバギーが用意されているが、人気が高いため繁忙期などは足りなくなる場合もあるため、事前予約するのが安心だ。
http://www.hamiltonisland.com.au/jp

# 団体向けユニーク体験
## 無人島を独り占め

Uninhabited islands

無人島を独り占めして楽しむ――そんな贅沢もグレートバリアリーフでなら可能だ。実現してくれるのはケアンズを拠点とするGBRヘリコプターズ。同社は無人の砂嘴であるサンド・ケイを独り占めにできるプラン「サンド・ケイ・エスケイプ」を販売している。最低2名からの利用が可能で、カップルで利用すれば2人だけの無人島体験が可能。ウエディングカップルには最適だ。ケアンズ発着で、ヘリコプターの往復飛行時間を含めて2時間の体験だ。（プライベートアイランドではないため他社の客と重なる場合もある）
http://www.gbrhelicopters.com.au

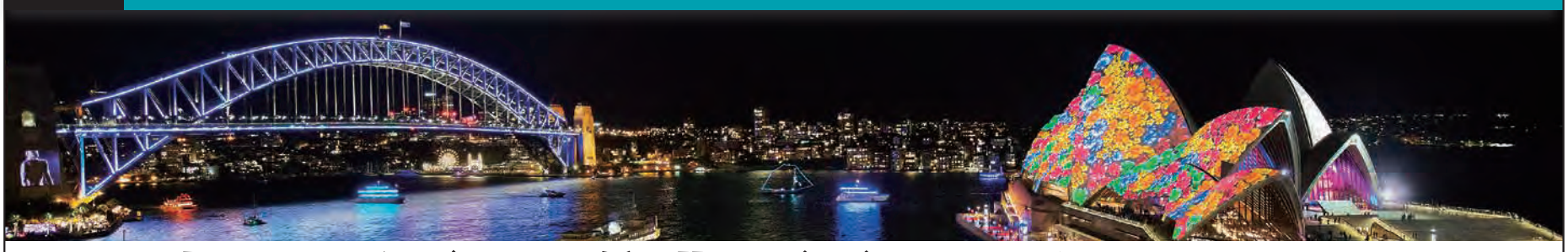
サンド・ケイ

2人だけで独占とまではいかなくても、小グループや団体旅行で独り占め感覚を味わえるのがオーシャンスピリットクルーズのミコマス・ケイへの1日クルーズだ。ケアンズを出港して往復航海を含む8時間半のプランで、ミコマス・ケイには4時間ほど滞在できる。クルーズに使用する「オーシャン・スピリット号」（最大乗船人数150名）をチャーターすればグループでのミコマス・ケイ占有も可能だ。
http://oceanspirit.com.au

ミコマス・ケイ

無人島のフランクランド・アイランドを利用できるのはフランクランド・アイランド・クルーズ社のプラン。島には同社だけがアクセスを許可されており、1日最大100名までしか受け入れない。このツアーの特徴は、ケアンズ中心部から車でサトウキビ畑を見ながら船の出発地点まで移動し、まずはリバークルーズで川を下り、その後海に出るコースのため、船酔いをしやすい方にはおすすめ。
https://www.franklandislands.com.au

フランクランド・アイランド



# 光と音とアイデアの祭典 ビビッド・シドニー

Vivid Sydney 2017

**南半球最大級のイベント「ビビッド・シドニー」は、今やシドニーを代表するイベントの一つ。毎年5〜6月にかけ、オーストラリアーの港湾都市シドニーが煌めく光と音に包まれる。ここでしか体験できない旅を演出できる素材として、今ビビッド・シドニーは見逃せない。**

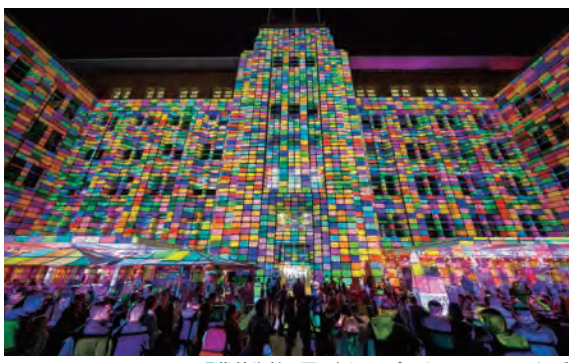
## 街中が光の祭典に

2009年のスタート以来、毎年5月中旬〜6月初旬の23日間に渡って行われるビビッド・シドニー。光と音に彩られるシドニーを舞台に約230万人が訪れるビッグイベントとなっており、世界各国のアーティストによる作品やアイデアが一堂に会する芸術の祭典として知られるようになった。2017年は5月26日〜6月17日までの開催だ。

イベントは大きく分けて3つのセクションから成っている。光の「ビビッド・ライト」、音の「ビビッド・ミュージック」、そしてアイデアの「ビビッド・アイデア」だ。ビビッド・ライトでは、シドニーのアイコンであるシドニー・オペラ・ハウスがメインステージ。さまざまな映像やプロジェクション・マッピングが映し出され、近くから見上げても、海上から眺めても飽きることがない。

また、シドニー・ハーバー・ブリッジもライトアップされるほか、元税関庁舎のカスタムズ・ハウスやロックス地区のトンネル、アーガイル・カットなどをスクリーンにプロジェクション・マッピングが映し出される趣向も毎年場所や内容を変えて展開。街の至る所に照明インスタレーションやプロジェクションなどの作品も展示され、踏んで音を出したり、光の壁に自分を映し出したり、作品を“体験”できるのも同イベントの魅力となっている。

ビビッド・シドニー公式ウェブサイト
http://www.vividsydney.com/
ビビッド・シドニー動画（2016年版）
https://vimeo.com/171516072



シドニー現代美術館に写し出されるプロジェクション・マッピング

## 特等席は橋の上や海の上にも

「ビビッド・ミュージック」では、世界的に知られるミュージシャンの公演やライブハウスでのさまざまなライブ・パフォーマンスを開催。「ビビッド・アイデア」は、音楽や映画をはじめ、芸術、デザイン、ゲーム、メディアなどあらゆるクリエイティビティーをテーマにワークショップやコンファレンスなどが行われる。

期間中はまた、ビビッド・シドニーに合わせて特別なアトラクションも楽しめる。例えばシドニーの大人気アトラクション、ブリッジ・クライムにもイベントバージョンの「ビビッド・クライム」が登場。ブリッジの頂上134mまで登るスリリングなナイト・クライムで、頂上からは光に染まるシドニーの街を見渡すことができる。

橋の頂上から見渡すシドニー

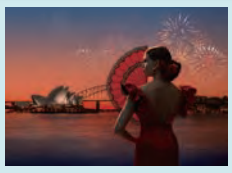
さらにこの時期は、さまざまなクルーズ会社が特別クルーズを運航。老舗のキャプテンクック・クルーズやクラッシックな外輪船で華麗なエンターテインメントショーが楽しめるシドニー・ショーボートなど、さまざまなコースを用意。海上から18時の点灯を見るコースや豪華なディナーとショーを満喫するコースなどがあり、いずれも海の上からビビッド・シドニーを眺める特等席を提供している。

クルージングで光輝くハーバーを満喫

ブリッジ・クライム http://www.bridgeclimb.com/
キャプテンクック・クルーズ
https://www.captaincook.com.au/japan/
シドニー・ショーボート
http://www.sydneyshowboats.com.au

### ハンダ・オペラ・オン・シドニー・ハーバー

#### 究極の野外オペラ　2017年は「カルメン」



ドラマチックな舞台が期待される2017年の「カルメン」

オペラの街シドニーでは、毎年3月に野外ステージで大迫力のオペラ、「ハンダ・オペラ・オン・シドニー・ハーバー」が上演される。2012年にスタートした催しで、主催はオーストラリアの国立オペラ・カンパニー「オペラ・オーストラリア」だ。同オペラの魅力は、なんといっても王立植物園に面したシドニー湾上に設置される特設ステージ。3000人を収容する客席からはステージ越しにオペラ・ハウスやハーバー・ブリッジを望め、夜になると夜景に彩られて一層華やかになる。

これまで「椿姫」「蝶々夫人」「アイーダ」などが上演されてきたが、2017年は2013年の再演となる「カルメン」。上演期間は3月24日〜4月23日だ。なお、オペラの上演期間中は、カフェやレストラン、バーもオープン。会場までは水上タクシーやシャトル・サービスでアクセスできる。
https://opera.org.au/whatson/events/carmen-on-sydney-harbour

# シドニー滞在にビーチリゾートの彩りを

Aquatic and Coastal Experiences in Sydney and NSW

**ニュー・サウス・ウェールズ州には1590kmもの海岸線があり、そのうち990kmがビーチ。大都会シドニーでも、車で30分も移動すれば、いくつもの美しいビーチが連なっている。なかでも市民の憩いの場となっているのが、ボンダイビーチとマンリービーチだ。サーフィンだけではないビーチの楽しみ方を紹介しよう。**

## ボンダイビーチ

シドニーの東、タスマン海沿いに連なるビーチの中で、もっともにぎわいを見せるのがボンダイビーチだ。大きく弧を描くビーチでは、一年を通して地元の人々がマリンスポーツや散策を楽しんでいる。海沿いにはおしゃれなカフェ文化も発達していて、海に入る時間がない旅行者でもリゾート気分に浸れるだろう。

また、ビーチ沿いには遊歩道が整備されていて、誰でもコースタルウォークが楽しめる。ボンダイビーチからブロンテビーチへとつながる道は約2km。普通に歩けば30分ほどなので、往復すればいい運動になる。シドニーからビーチまでのアクセスは、2階建の巡回バス「ボンダイ・エクスプローラー」を利用するのが便利だ。

コースタルウォークが気持ちいいボンダイビーチの遊歩道

## マンリービーチ

シドニーから気軽にアクセスできるマンリービーチもまた人気のリゾート。サーキュラー・キーからフェリーで約30分なので、高級住宅地が並ぶウォーターフロントの景色を眺める船旅も楽しめる。サーフショップやカフェが建ち並ぶ目抜き通りを抜けると、その先に広がるのがマンリービーチだ。比較的波が高いのでサーフィンやボディボードに最適だが、こちらにも海岸沿いに遊歩道があり、思い思いにウォーキングやランニングにトライできる。

なお、どちらのビーチでもサーフィン・レッスンを催行しており、初心者でも一度のレッスンで波に乗れるようになるとか。上級者向けやグループ向けのレッスンも可能だ。

サーファーの聖地、マンリービーチ

バイロン・ベイのランドマークとして愛される白い灯台

### バイロン・ベイ

**シドニーの北約800kmのバイロン・ベイは、オーストラリア最東端の街。豊かな自然に恵まれたのどかな雰囲気が特徴で、山と海の両方を楽しめる。ここでは、洗練された大人のリゾートでゆったりとした休日を過ごすのがお勧め。2つのリゾートを紹介しよう。**

#### バイロン・アット・バイロン

バイロン・アット・バイロン

街のランドマークである灯台から少し南下したブロークン・ヘッド・ロード沿いに立地。自然の森の中に佇むモダンなリゾートで、客室は3タイプすべてがスイート仕様だ。レストランでは洗練されたランチやディナーを、森に囲まれたプールやスパではリラクゼーションを満喫でき、非日常の時間を心地良く演出してくれる。
Byron at Byron Resort and Spa
https://www.thebyronatbyron.com.au/

#### エレメンツ

エレメンツ

今年オープンしたばかりのエレメンツは、灯台から西へ移動した海沿いに立地。ユニークな外観のパビリオンにレセプション、レストラン&バー、スパなどがあり、客室は敷地内に点在する個別のヴィラとなっている。施設全体がスタイリッシュで、まさに大人の隠れ家的なリゾートだ。ラグーンプールやプライベートビーチでゆったりとした水辺の休日を楽しみたい。
Elements of Byron Resort
http://www.elementsofbyron.com.au/en/

「絶景大陸 オーストラリア」
キャンペーン始動

# オーストラリア 水辺の体験素材

オーストラリア政府観光局が展開している
「絶景大陸 オーストラリア」キャンペーンは、
オーストラリアの水辺の景観とそこでの旅行体験を訴求するもの。
大きな海洋にぐるりと囲まれたオーストラリアは、周囲にさまざまなビーチや湾、
内陸に河や湖を擁し、豊かな自然景観を見せてくれる。
ここでは、各州イチオシの水辺の体験を紹介していこう。

「絶景大陸オーストラリア」
**キャンペーン**
www.australia.com/360JP

## ノーザンテリトリー

### カカドゥ国立公園

#### 野鳥の楽園でイエローウォータークルーズ

ダーウィンの南東に位置するカカドゥ国立公園は、国内最大級の国立公園にして世界遺産。雄大な自然とアボリジニの楽園が訪れる者の興味を掻き立てる。ここではサウスアリゲーター・リバーの支流、イエローウォーターでのクルーズが大人気。公園内の町ジャビルから南へ48kmのクーインダから出発し、1時間半から2時間のクルーズが楽しめる。ゆったりと湿原を進む船から見えるのは、手つかずの自然に生息する約60種250万羽のバードサンクチュアリ。水辺のペリカンやコウノトリ、蓮の葉の上を歩くトサカレンカク、上空にはウミワシやカササギガンが見えるほか、水面からはイリエワニも顔を出す。バードウォッチングを楽しむなら、季節は4～10月がベスト。早朝クルーズの方が鳥の動きが活発だが、夕日が美しい夕方のクルーズもお勧めだ。
http://www.kakadutourism.com/tours-activities/yellow-water-cruises/

### リッチフィールド国立公園

#### 天然のプール、滝壺が魅力のワンガイフォールズ

ダーウィンの南、車で約2時間のリッチフィールド国立公園は、滝や川、多雨林が織り成す自然の宝庫。地元の人々にとっても憩いのネイチャーリゾートとして知られている。ここでは何と言っても滝壺でのスイミングが大人気。特にワンガイフォールズの滝壺は大きな池、もしくは小さな湖ほどの大きさで、水も天然のプールのように澄んでいる。誰もが飛び込みたくなる滝壺なので、水着は必携だ。ダーウィンから近いので、日帰りのツアーに参加するのがお勧め。例えばAAT KINGS主催の「リッチフィールド日帰りツアー」なら、午前中にウォーキングとフローレンスフォールズでのスイミング、ランチを挟んで午後にワンガイフォールズの滝壺で泳ぐスケジュールになっている。
https://www.aatkings.com/destination/regions/litchfield-national-park/

## 西オーストラリア州

### シャークベイ

#### 真っ白な貝殻が積もるシェルビーチ

パースの北約830kmのシャークベイは、1991年に認定された世界遺産。海洋生物の宝庫として知られているほか、藻の一種で世界最古の生物といわれるストロマトライトをハメリンプールの入り江で見ることができる。

このシャークベイで人気の観光地といえば、見逃せないのはシェルビーチだ。110kmに渡って続くビーチは、小指の爪ほどの小さな貝殻で真っ白に埋め尽くされている。ここに貝が堆積し始めたのは4000年も前のこと。貝殻はやがて石灰岩となって沈殿し、その上にまた貝殻が積もったため、場所によっては10mの深さにもなるという。ここでは、貝の浜辺をゆったりと散策してみたい。シャークベイ観光の拠点となる街、デナムに宿泊し、野生のイルカに餌付けができるモンキーマイヤやストロマトライトと併せて訪れるのがお勧めだ。
http://style.qantas.jp/area/wa/hikyo/ocean/shellbeach/

### エスペランス

#### 稀に見るピンクの湖、ヒリアー湖

パースの南東、南極海に面したエリアは、いくつもの美しいビーチが連なるリゾート地。拠点となる街、エスペランスの沖では、世界でも珍しいピンクレイクを見ることができる。ルシェルシュ群島の中で最も大きなミドル島にあるヒリアー湖がそれで、大きさは全長600mほど。鮮やかなピンク色に見える理由は解明されておらず、水中の藻の一種が太陽光を受けるためという説がある。ヒリアー湖は島の展望台から眺めることもできるが、ヘリコプターで上空から、クルーズで海上から間近に迫るのがお勧め。エスペランス発のクルーズに乗れば、青い海に浮かぶ島々と野生動物、海洋生物なども見ることができる。
http://www.australiasgoldenoutback.com/Listing/Lake_Hillier

## クイーンズランド州

### ゴールドコースト

#### サンセットに合わせて運河クルーズを

ビーチや海でのアトラクションが豊富にそろうゴールドコーストだが、サンセットを楽しむなら運河クルーズがお勧めだ。JPTツアーが主催する「サンセット・クルーズ・ゴールドコースト」は、穏やかな内海の運河、ブロードウォーターをクルージングする優雅なツアー。ウォータフロントに建つ高級住宅地やヨットハーバーを眺めながら、サーファーズ・パラダイスのビル群にゆっくりと落ちていく夕日を眺めるのがハイライトとなっている。17時に出発して18時には戻るショートツアーだが、その後はディナーをゆっくりと楽しむ時間に充てることができる。
http://www.jpttours.com/optional-tours/tours/sunset-cruise-gold-coast

### ケアンズ

#### グレート・バリア・リーフ・マラソン・フェスティバル

ケアンズの北、約70kmのポートダグラスで行われる「グレート・バリア・リーフ・マラソン・フェスティバル」。2016年は11月12日に行われ、2000名近くが参加した。同マラソンの魅力は、世界遺産グレート・バリア・リーフの海沿いや熱帯雨林の中を走る自然に満ち溢れたコース。ウルトラマラソンの74kmを筆頭に、フル、ハーフ、10km、5km、2.3km（ジュニアチャレンジ）とレベルに合わせて6コース用意されている。いずれのコースも4マイルビーチをスタートし、フルやウルトラマラソンでは世界遺産のモウブレイ国立公園や熱帯雨林を走り抜けるのが人気の秘密だ。大会の後はアフターパーティーが行われ、世界各国のランナーやその家族・仲間と交流できるのも魅力となっている。
http://www.greatbarrierreefmarathon.com.au/

## ニュー・サウス・ウェールズ州

### シドニー

#### オーストラリア海洋博物館

ダーリング・ハーバーに位置し、オーストラリア人と海との関わりを多角的に知ることができる博物館。敷地内の海には駆逐艦のバンパイア号や潜水艦のオンスロウ号など本物の船舶が展示されており、無料で見学できる。船好きには、イギリス海軍のジェームス・クック船長が世界周航に使ったエンデバー号のレプリカも見逃せないだろう。館内のギャラリーでは、航海や貿易、海軍の歴史、移民に関する展示やフィルムが上映されている。また、2015年11月には新しいアトラクションとして「アクション・ステーション」がオープンした。かつての海軍が実際に直面した危機やエピソードを船の中で体感できるもので、最先端の技術が駆使されている。
http://www.anmm.gov.au/

### ボンダイビーチ～タマラマビーチ

#### 海辺の彫刻展、スカルプチャー・バイ・ザ・シー

シドニーの東、タスマン海沿いはいくつものビーチが連なるリゾートエリア。地元の人々や旅行者に人気があるのは、なんといってもリゾート感あふれるボンダイビーチだ。ボンダイからタマラマビーチまでの遊歩道沿いは、毎年10～11月にかけて開催される屋外彫刻展、「スカルプチャー・バイ・ザ・シー」で知られている。約2kmのコースタルウォークのコースに沿ってさまざまな彫刻作品が展示されるイベントで、今年で20回目の開催。夏を迎えるこの季節、海沿いの風景に溶け込むインタラクティブな作品を見ながらユニークなウォーキングが楽しめる。なお、ボンダイビーチまではシドニー市内と東海岸エリアを巡回する二階建てバスを利用するのが便利。
http://sculpturebythesea.com/bondi/

## 南オーストラリア州

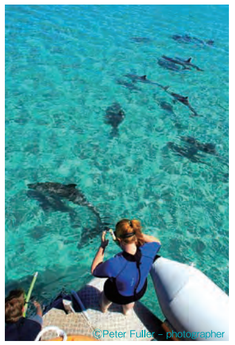
### フルリオ半島

#### ボートツアーで海洋生物をウォッチング

アデレードの南に位置するフルリオ半島は、風光明媚なリゾート地。エンカウンター湾に面した海は、セミクジラ（6～10月）やフェアリー・ペンギン（10～1月）、アシカ、イルカなどが生息する海洋生物の宝庫となっている。半島最大の町、ビクター・ハーバーからはザ・ビッグ・ダックが海洋生物を観察できるボートツアーを催行。小さな島を巡りながらさまざまな動物に出会える「ワイルドライフ&ホエール・ディスカバー・ツアー」（90分）がお勧めだが、時間がない旅行者には45分でシール・アイランドまで往復するツアーも用意されている。45分でアシカやイルカ、運が良ければクジラに遭遇することもあるという。
http://www.thebigduck.com.au/

### カンガルー島

#### アイランド・エクスプローラー・ツアーでイルカと遊泳




アデレードの南西に位置するカンガルー島は、オーストラリアで3番目に大きな島。カンガルーやコアラなど野生動物の宝庫として知られているが、島周辺の海にも多種多様な海洋生物が生息している。ボートツアーで海へ出るなら、カンガルー・アイランド・マリン・アドベンチャーズが主催する「アイランド・エクスプローラー・ツアー」がイチ押し。船の上からアザラシやオットセイ、ウミワシ、海中の魚などさまざまな生物たちを見ることができる。ツアーのハイライトはボトルノーズ・ドルフィンとの遊泳だ。この種は好奇心が旺盛で人懐こい性格。透明度の高い海でイルカと戯れる体験は得難い思い出になるだろう。
http://www.kimarineadventures.com.au/

## タスマニア州

### クレイドル・マウンテン

#### 水辺に佇むクレイドル・マウンテン・ロッジ

タスマニア州の西部に位置する世界遺産、タスマニア原生地域は、太古の姿をとどめる原生林や雄大な山々、澄み渡る湖などに彩られている。ここでは、水辺の自然に溶け込むように建つ「クレイドル・マウンテン・ロッジ」に宿泊したい。至福の時間を満喫できる食事やワイン、スパなど一流の施設とサービスを堪能できるのはもちろん、ありのままの自然に身を置くことで心身共に癒されることができる。

また、周辺は世界中のハイカーを魅了するウォーキングのメッカで、なかでも人気が高いのは標高1545mのクレイドル・マウンテン国立公園だ。大自然を満喫できるウォーキングルートがいくつも整備されているが、初心者ならダブ湖を一周する2時間のコースがいいだろう。
http://www.cradlemountainlodge.com.au/

### ホバート

#### 港街ホバートを海から巡るカヤックツアー

州の南部を流れるダーウェント川の河口に開けたホバートは、タスマニア州の州都にして港湾都市。毎年12月の末にはシドニーからホバートまで約1100kmを走るヨット・レースが行われ、夏の風物詩となっている。そんな港街ホバートを楽しむなら、カヤックツアーがお勧めだ。Roaring 40°s Kayaking社が主催する「ホバート・シティ・カヤック・ツアー」なら、2時間半でホバートのさまざまな表情を望むことができる。インストラクターによるパドル・レッスンを済ませたら、すぐにダーヴェント川を河口に向かってスタート。陸地ではオーストラリアで最も古い住宅街、バッテリー・ポイントやサラマンカ地区を、海上ではエレガントなヨットやクルーザーなどが行き交う風景を眺め、ゆったりと進むカヤックの旅を楽しみたい。
http://www.roaring40skayaking.com.au/

## ビクトリア州

### フィリップ島

#### 歩く姿が愛らしいペンギン・パレード

メルボルンから南東へ車で約90分のフィリップ島は、さまざまな野生動物のウォッチングで知られる島。なかでも野生のリトル・ペンギンが日没後に海から陸へと戻ってくる「ペンギン・パレード」が人気だ。エリアー帯が保護区として守られているため、自然の習性に従って巣へと歩く姿を旅行者はそっと観察できる趣向になっている。昨年はパレードを観察するための「ペンギンプラス席」をリニューアル。2階建ての構造に地下階を増設し、列を作って歩くペンギンたちの様子をペンギンと同じ目線で観ることができるようになった。昼間は島の美しい自然と他の野生動物を楽しみ、夕方からペンギン・パレードに参加するのがお勧めだ。
https://www.penguins.org.au/

### モーニントン半島

#### ドルフィン・スイムと温泉をセットで

ポート・フィリップ湾を挟んでメルボルンの対岸に位置するモーニントン半島は、豊かな自然が残り、野生動物と触れ合える魅力的なエリア。ここでは、ムーンレイカー・ドルフィン・スイムが主催する「ドルフィン・スイムとホット・スプリングス」のツアーが人気だ。まずはボートでポート・フィリップ湾をクルージングし、シュノーケリングでイルカと一緒に泳いだり、アシカの近くまで接近したりと海のアクティビティーを満喫。その後は桟橋から車で約10分の「ペニンシュラ・ホット・スプリングス」でゆっくり温泉を楽しむ内容になっている。同施設の天然温泉は、地下673mから湧出したもの。露天風呂、ハイドロ風呂、スチーム風呂など20もの設備でさまざまなお湯が楽しめる。ツアーは半日なので、半島のワイナリーや庭園などと組み合わせてスケジュールするのがいいだろう。
http://www.moonrakercharters.com.au/

## エイチ・アイ・エス／H.I.S.

# 自然の魅力を訴求 多様化するニーズに対応

トラベルワンダーランド新宿本社
ビーチリゾート専門店

セールスチーフ
**小貫 雄大氏**

### 海と山の魅力がある ケアンズを提案

「グレート・バリア・リーフの無人島 まるごと貸切特別企画」など紹介

2016年のオーストラリア方面の取り扱いが前年比130%以上を推移するエイチ・アイ・エス。航空座席供給及び商品露出の拡大が要因で、2017年も2～3月のベストシーズンを中心に大きな伸びを期待している。

好調に推移するなか、オーストラリアにおいては特に自然へのニーズが高まっているという。「こうした傾向を踏まえ、当社ではケアンズを強く推している」と語るのは、同社ビーチリゾート専門店の小貫氏。フライト時間が短く時差が少ない点、世界遺産のグレート・バリア・リーフを擁しているといった理由に加え、同社ではオリジナルプランとして、無人島フランクランド島の貸切りという特典が大きな強みになっている。フランクランド島はケアンズの南約45kmに位置し、1日最大100人しか上陸できない無人島。ここではさまざまなアクティビティーを楽しむことができる。

このフランクランド島を含む「海」に加え、「山」と「動物との触れ合い」を盛り込んだイチ押し商品が「まるかじり☆ケアンズ5、6日間」。グレート・バリア・リーフの海と山の世界遺産であるキュランダ観光の両方が入ったお得感のある商品となっている。

さらに、早朝に到着するケアンズ初日には、ケアンズ最大の動物園「ハートリース・アドベンチャーズ」へ案内。開園前の動物園をのんびり楽しめるのは、同社商品のみとなっているほか、定番のコアラ抱っこ体験以外にも脱力系アニマルとして人気上昇中のウォンバットと写真撮影ができるH.I.S.オリジナルプランもプラス。これによりオーストラリアのビギナーに訴求、ファミリーや学生、シニアなど、幅広い層にマッチし、売れ行きは好調だ。「各都市にビギナー向けコースを用意しており、ケアンズは2つの世界遺産やコアラとのふれあいが体験できるという内容充実のコースの人気が高い」（小貫氏）という。

### 今日本でも話題の グランピングを商品化

専門店だからできる細かなニーズへの対応

トラベルワンダーランド新宿本社は、方面別、テーマ別の専門店が集まる大型店舗。オーストラリアは「ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア専門店」と「ビーチリゾート専門店」で販売されている。他社にはないユニークな商品にも力を入れており、なかでもオーストラリアではグランピングを取り入れた商品を発表した。

日本でも近年聞かれるようになった“グランピング”だが、ウルル（エアーズ・ロック）やカンガルー島をはじめ、シドニーやメルボルンなどの都市も含む6カ所を商品化。シドニー動物園に滞在するユニークなプランもある。ラグジュアリーなグランピングを旅の行程に取り入れることで、“旅の中の非日常”を演出する商品で、ニッチなマーケットではあるが、ハネムーナーやリッチな女子旅も意識した内容だ。

また、ビーチリゾート専門店の中でも好調なケアンズでは、自由時間の足となるアクアビーチシャトル（シティエリア⇔ビーチリゾートエリア・パームコーブ）を1月5日からリニューアルし、1日1便を11便に増便。「“旅ナカ”での利便性・満足度の向上や、ビーチエリアを改めてクローズアップすることで、幅広い滞在プランが、2度目のケアンズの旅行にも提案できる」と小貫氏。

### 来店者が持つ知識を 超えた提案で

カウンター店舗の意義を打ち出す

旅行ニーズの多様性に合わせ、受け皿となる商品ラインナップは多岐に渡り、サービスもきめ細かくなっている。販売側もそれに合わせた対応が求められている。まずは来店者の要望をすべて聞き出すところから始まるが、有名な観光地に行きたいという思いは老若男女の共通するところ。その上で、何かをしたい、見たい、食べたいという目的意識もあり、特に若者にその傾向が強いという。

例えば、食のクオリティが劇的に変化しているオーストラリアでは、食事を気に掛ける旅行者は多い。「人気のカフェレストラン『ビルズ』の朝食、ワインやオージービーフといった具体的な話から実際の予約へつながることもあります」と小貫氏。FITであっても、エアーとホテル以外の素材や観光地を提案することで、細分化するニーズに対応しているという。

インターネットがあれば現地情報を調べ、自らチケットを予約できる時代だが、「来店するお客様が持っている知識を超えた提案をできるのがカウンターの強み」（小貫氏）。これこそまさに旅行会社における店舗の存在意義であり、同社の活気に満ちた明るい店舗がそれを物語っている。

## 旅工房／Tabikobo

# コンシェルジュが寄り添い 納得のオーダーメイドのツアーを提供

南太平洋・オセアニアセクション

リーダー
**幸田 一輝氏**

トラベル・コンシェルジュ
**浅利 桃子氏**

旅工房のウェブサイト　http://www.tabikobo.com/

ウェブサイトではオーストラリアの特集ページも設けている

### 3年前より本格展開 パッケージを各種アレンジ

オンラインでの展開が中心の同社。顧客からのリクエストを受け、一部来店対応もあるものの、7～8割が電話やメールで対応を行うという。客層は若く、20～40代が中心。オーストラリア方面の商品展開は、3年ほど前から本格化。商品ラインナップが定着し、さらに航空座席供給が増加傾向にあることから、売上は右肩上がりで伸びている。特に「利益率が高い」（幸田氏）のも特徴だ。

同社の強みは、コンシェルジュが顧客のニーズに合わせた提案を行う点。オーストラリアの取り扱いのうち、7割がパッケージで、残る3割は完全なオーダーメイドの依頼。パッケージでは、「お客様のニーズに合わせ、ホテルのアップグレードをしたり、周遊コースにしたり、ちょっとしたアレンジを行っている」（浅利氏）とのこと。

航空座席供給の増加に合わせ、エアとホテルの組み合わせのバリエーションが増え、これに組み込むオプショナルツアーなどのラインナップも充実してきたことで、例えばケアンズなら、ビーチだけでなく熱帯雨林のキュランダにも行く、という内容の濃いツアーに仕上がるケースが増えている。

### オーダーメイドの要望も 自然に高い関心

オーダーメイドについては、多くは明確な目的がなく、漠然とした要望を聞き取りながら一から作り上げていくという。もっとも多いのは「コアラを抱きたい」や「ウルルを見たい」など、オーストラリアの自然に関する要望だが、最近はワイナリーや食の問い合わせも増え、オーストラリアにおけるリクエストの内容に変化を感じているという。

一方で、「ニュージーランドもまわりたい、釣りがしたい」といった目的意識の高いオーダーもあり、リクエストに応えるツアーを実現させていくことで、オーストラリア商品の質と量が増していると言えそうだ。

### ハネムーナーが主力 周遊コースが人気

オーストラリアの客層は、「4割ほどがハネムーナー」（幸田氏）で占め、ほかにはファミリーや女子旅、「卒業旅行シーズンには学生も増える」とのこと。人気の方面は、ハネムーナーの場合は、「ハミルトンとエアーズロック、ケアンズの周遊」が中心。ほかでもエアーズロックとシドニーを組み合わせるなど、周遊コースへの人気が高い。

### コンシェルジュとの関わりで 旅行前に安心感を

南太平洋・オセアニアセクションのコンシェルジュは浅利氏を含め全部で5名。浅利氏はオーストラリア政府観光局によるスペシャリスト認定ASPを取得、現在もさらに上を目指して勉強中だ。

接客で心がけているのは「旅への期待にわくわくしてもらえるような話をすること」（浅利氏）。メールであっても、文章が硬くなり過ぎないように気を使う。また、「キュランダなら観光列車の内装はレトロでおしゃれ」など、自分の経験を具体的に盛り込むことで、お客様の興味をかきたてるよう、意識する。観光局からのインフォメーションも重要な情報源。顧客からの感想も貴重な情報としてストックするのも接客のコツとなる。

「コンシェルジュの役割は、メールや電話であっても人との関わりによってお客様に安心していただくこと」と浅利氏。同社では顧客がこうしたコンシェルジュのファンになり、リピーターとなっていくケースも少なくない。また、ポータルサイトの口コミも顧客獲得の窓口のひとつとなっており、顧客満足度の高さもリピートにつながっているという。

### メルボルン直行便で タスマニアの レンタカー商品を検討

今後同社では、カンタス航空の成田―メルボルン線が開設されることから、乗り継ぎが便利となるタスマニア州ホバートへのツアー造成を検討。「レンタカー付きのプランにして、オリジナルの地図を付ける」（幸田氏）といったサービスなどを考えている。

幸田氏は今年10月に研修旅行でメルボルンを訪問。もっとも印象に残ったというフィリップ島のペンギン・パレードに加え、メルボルンのレトロな街並み、女性受けしそうなカフェ文化を合わせ、「メルボルンの魅力を20～30代の女性に発信していきたい」考えだ。

ノーザンテリトリー
NORTHERN TERRITORY

オーストラリア特集　2016

# 記憶に残る旅を約束してくれる悠久の大自然

豊かな緑に覆われたトップエンド、赤土の砂漠が広がるレッドセンター。ノーザンテリトリーは多様な生態系と自然にあふれている。アボリジニが語り継ぐドリームタイムの物語に耳を傾け、悠久の大地からパワーをもらい、ココロもカラダも元気になる。ノーザンテリトリーらしいユニークな体験は、記憶に残る旅を約束してくれるだろう。

## トップエンド TOP END

ノーザンテリトリー北部のトップエンドには、手つかずの大自然に育まれた貴重な生態系と貴重なアボリジニ文化が色濃く残る。誰もが一度は訪れてみたいと思うデスティネーションだ。

## ダーウィン

### 静かな港町で快適リゾートライフ

トップエンドのゲートウェイとなるダーウィンでは、港町らしいライフスタイルが楽しめる。ウォーターフロントや中心部にはおしゃれなカフェやレストランも多い。乾季（5～10月）の木曜と日曜に開かれる「ミンディルビーチ・サンセットマーケット」も観光客に人気だ。

## リッチフィールド国立公園

### 自然に抱かれ滝壺でスイミング

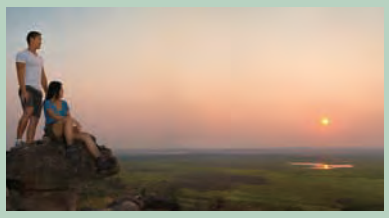
ダーウィンの南約115km。日帰り圏内にあるリッチフィールド国立公園は、トップエンドの大自然を気軽に楽しむことができる場所だ。人気のアクティビティーは、滝壺が自然のプールとなっている「ワンガイフォールズ」でのスイミング。このほか、園内には数多くの滝があり、変化に富んだ風景が楽しめる。また、高さ5mを超える巨大アリ塚も必見。ノーザンテリトリーらしい自然の驚異は、絶好のSNSネタになるはずだ。

## カカドゥ国立公園

### かけがえのない大自然とアボリジニ文化

トップエンド観光のハイライトである世界複合遺産のカカドゥ国立公園へは、ダーウィンから1泊2日のツアーで訪れるのが一般的だ。広大な公園内には見どころが満載。独自の進化を遂げた生態系に触れたいなら「イエローウォーターリバークルーズ」がおすすめ。多様な野鳥やイリエワニまで湿原に生息する野生動物を間近に観察することが可能だ。

また、アボリジニのロックアート（壁画）もカカドゥの特長のひとつ。東部にある「ウビア」や「ノーランジーロック」には、アボリジニの神話を今に伝える壁画が数多く残る。先住民の文化をもっと深く知りたいなら「ワラジャン・アボリジナル・カルチャルセンター」を訪れるのもいいだろう。



文化体験に加えて、ウビアはカカドゥ国立公園随一のサンセットスポットとしても有名な場所。トップエンドの地平線に沈む赤い夕日は心を揺さぶるスピリチュアルな光景だ。

## レッドセンター RED CENTRE

オーストラリアの真ん中、ノーザンテリトリーの南部に広がる赤土のアウトバック。アボリジニの聖地を巡りながら、リゾートでバケーションを楽しむ。ほかでは体験できない旅がここにはある。

## ウルル-カタ・ジュタ国立公園

### 一生に一度は見たい世界に誇る絶景

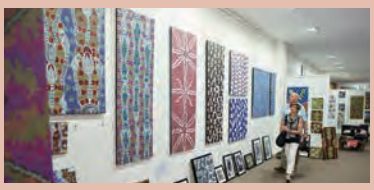
地表面の広さ周囲9.4km、高さ346mの世界最大級の一枚岩「ウルル（エアーズロック）」は、世界で最も有名な観光スポットのひとつ。ウルルを一周するベースウォーク（約10km）、サンライズ／サンセット、サウンド・オブ・サイレンスディナー、シーニックフライト、キャメルツアー、アウトバックサイクリングなど楽しみ方はさまざまだ。

一方、ウルルの西約45kmにある巨岩群「カタ・ジュタ」は、高さ546m（海抜1069m）のマウントオルガをはじめとする大小36の岩からなる。「ワルバ渓谷」や「風の谷」などではトレイルが整備されており、絶景を眺めながらウォーキングを体験することができる。

観光の拠点は「エアーズロック・リゾート」。5軒のホテルとキャンプ場、最高級サファリリゾート「ロンギチュード131°」のほか、ショッピングモールやアート&ミュージアムもあり、快適なリゾートライフを楽しむことができる。また、日本語サービスも充実しているので、日本人旅行者にも安心のリゾートだ。

## アリススプリングス

### 街歩きも楽しい砂漠のオアシス



オーストラリアのほぼ中央に位置する人口2万5,000人ほどの町。市街地は小さくまとまっており、歩行者天国のトッドモールには、レストラン、カフェ、アボリジニアートのギャラリー、お土産屋などが集まり街歩きも楽しい。ウルルまではバスで片道約6時間というロケーション。ウルル観光の前後に立ち寄り、砂漠のオアシスでのんびり過ごすのもおすすめだ。

### アリススプリングス・デザートパーク

#### 砂漠の生態系が学べるテーマパーク

アリススプリングスから車で10分ほど。3つの自然環境エリアには120種を超える動物が飼育されており、350種を超える植物も見ることができる。また、夜間にガイドと一緒に夜行性動物を見て回るノクターナルツアーも人気だ。

### ウエストマクドネル国立公園

#### アリススプリングスから気軽に大自然

アリススプリングスから半日や日帰りで行くことができる大自然。山脈が大きく切れ込んだ巨大渓谷シンプソンズギャップの壮観な景色を楽しめるほか、運がよければ岩場で珍獣プラックフットロックワラビーを見つけることもできる。

### フィンケゴージ国立公園

#### ワイルドな岩々が連なる奇景

フィンケゴージ国立公園もアリススプリングスを拠点に観光できる絶景。ノーザンテリトリーで最も歴史のある布教の村ハーマンスバーグの南、ジェームス山脈の一面にあるパームバレーは最大の見所だ。高さ25mにもなる世界でこの一帯にしか生えないレッドキャベージパームも観察することができる。

オーストラリア本土で一番小さい州ながら、豊かな自然が広がり、四季の変化により季節ごとにユニークな体験ができるメルボルン。郊外の観光地へのアクセスが良いため移動時間が少なく、滞在時間を有効的に活用できる。そんな魅力が多いメルボルンのおすすめ観光体験を紹介。

# メルボルンで感動体験！

## ① メルボルン　Melbourne

ビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と、近代的な建造物が融合した街並みが魅力のオーストラリア第2の都市。別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、英誌「エコノミスト」の「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは、2011年から2016年まで6年連続で1位に選ばれている。

### メルボルンの市内観光はフリンダースストリート駅から

1854年に国内最初の駅として完成した建物。メルボルンのシンボルであり、代表的な待ち合わせスポット。郊外へ行く際は観光客も気軽に利用できる。道を挟んだ向かいにはメルボルンの文化発信基地「フェデレーションスクエア」があり、メルボルン観光のスタート地点として最適。

### 街歩きでレーンウェイやカフェ通りを散策

19世紀の佇まいそのままの石畳の小径「レーンウェイ」。最もメルボルンらしい光景で独特の雰囲気があり、まるでどこかヨーロッパの町へ迷い込んでしまったかのよう。道の両側には小粋でかわいらしいカフェやレストランが建ち並ぶ。特に「デグレーブストリート」のカフェ通りは常に地元客で賑わい、店内や道に並んだテーブルに腰掛けてゆったりとコーヒーブレイクを楽しみたい。

### メルボルン市街を一望するならユーレカスカイデッキへ

ユーレカスカイデッキは南半球で最も高い地上285m、88階にある展望デッキで、眼下広がるメルボルンの景色が圧巻。また、世界でここでしか体験できないのが、遮光切替ガラスのキューブが建物から滑り出すスリリングなアトラクション「エッジ」。是非トライしたい。
https://www.eurekaskydeck.com.au/

### 日本でなかなか味わえない世界の料理を楽しむ

約100ヶ国の料理、3000軒もあると言われるメルボルンのレストランで世界のグルメ体験。日本ではなかなか味わえない本場の味が楽しめる。おすすめは、ヤラ川沿いの南半球最大の「クラウン・エンターテイメント・コンプレックス」（写真）。国内外セレブシェフのレストランが軒を連ね、シティの夜景を眺めたり、川沿いを散歩したり、ナイトライフをエンジョイできる。
https://www.crownmelbourne.com.au/

### メルボルンでお土産を買うなら

メルボルンで最も古く、南半球最大の市場「クイーン・ビクトリア・マーケット」。新鮮なシーフード、お肉、野菜、フルーツなどの生鮮食料品はもちろん、日用雑貨やお土産を買うのにも最適。夏季、毎週水曜日にはナイトマーケットも開催される。
http://www.qvm.com.au/

**イチ押し!!**

#### 市内のトラム乗車が無料

トラム（路面電車）は、メルボルンを代表する公共交通機関。トラムに乗れば、市内ほとんどの観光スポットを巡ることが可能。乗り方も簡単なので、初めてメルボルンを訪れる人でも気軽に利用できる。メルボルン市内中心区域、及びドックランド地区内でのトラム乗車は無料なので、メルボルンの市内観光に大変便利。市内の外周を循環するシティサークルトラムと合わせて、リーズナブルでより充実した観光ルートを組むことができる。

## ② ヤラバレー　Yarra Valley

メルボルンから車で約1時間の「ヤラバレー」は、オーストラリアを代表するワインの産地。自然豊かな環境の中、ワイナリー巡りで極上のワインを味わいながら、イチゴ狩りなど、フルーツピッキングも楽しめる。日本へ「シャンドン（Chandon）」の名で輸出されている「ドメイン・シャンドン」（写真）では、広大なブドウ畑を見渡す「グリーン・ポイント・ルーム」でのワイン・テイスティングが人気。

「ドミニク・ポルテ」もヤラバレーを代表するワイナリーのひとつで、リクエストによっては樽から直接ワインのテイスティングをすることも可能。

ドメイン・シャンドン
http://www.chandon.com.au/
ドミニク・ポルテ
http://dominiqueportet.com/

**イチ押し!!**

#### パッフィンビリー号に乗って、自然の中を森林浴

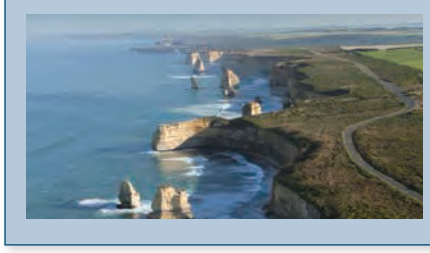
ヤラバレーに近く、豊かな自然が残されたダンデノン丘陵。この一帯が自然国立公園になっている。20世紀初頭に建設されたオーストラリア最古の蒸気機関車「パッフィンビリー号」に乗ると、緑濃い温帯雨林の中、まるでおとぎ話の世界のような雰囲気を楽しめる。

## ③ グレートオーシャンロード　Great Ocean Road

「世界で最も美しい海岸線」とも呼ばれる、美しさと壮大な景観を持つグレートオーシャンロード。全長260kmにわたり、海岸線に沿って絶景のドライブルートが続く。途中の町ケネットリバーでは野生のコアラ、アポロベイではシーフードに舌づつみ、そしてグレートオーシャンロード観光のハイライト、ポートキャンベル国立公園付近では、荒波に削り取られた断崖絶壁を見ることができ、今も浸食と崩落が繰り返され、海の中に奇岩群を残す。その中でも有名なのが「12使徒」や「ロックアード・ゴージ」だ。

**イチ押し!!**

#### 遊覧飛行で絶景を楽しむ



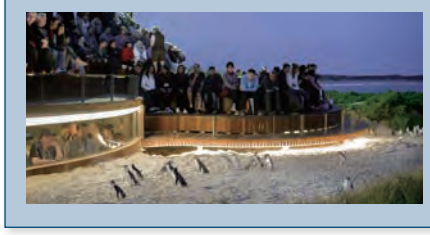
グレートオーシャンロードは上空からの眺めが抜群。12使徒近くからヘリコプターで遊覧し、上空から迫力満点の絶景を楽しむのがおすすめ。
12使徒ヘリコプター
http://www.12apostleshelicopters.com.au/

## ④ フィリップ島　Phillip Island

野生動物の宝庫、フィリップ島。自然保護への積極的な取り組みでも注目されている。特に人気は毎晩観られるペンギンパレード。島に生息する体長わずか30cmほどのリトル・ペンギンが毎晩、日没後に海から行列をなして陸の巣に帰ってくる姿を観察する人気のアトラクション。その他、島内にはチョコレート工場やワイナリーもあり、子供から大人まで幅広く楽しむことができる。

**イチ押し!!**

#### 「ペンギンプラス席」で間近にパレード観察



より近くでペンギンパレードを見ることが出来る特別の観覧席「ペンギンプラス席」。地下スペースではペンギンパレードをペンギンと同じ目線で観ることもできる。
https://www.penguins.org.au/

MELBOURNE Australia
**オーストラリア・ビクトリア州政府観光局**
http://jp.visitmelbourne.com/
お問い合わせ先：kenji.takamori@visitvictoria.com.au
電話（日本）：03（5218）2565

# 成田―メルボルン線開設
# 羽田と成田からオーストラリア3都市へ直行便

## カンタス航空で行くオーストラリア

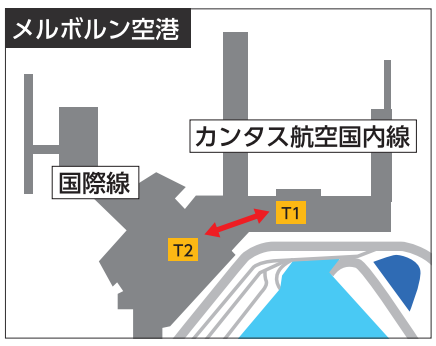
QANTAS
Spirit of Australia

カンタス航空は、12月16日に成田―メルボルン線を開設、羽田と成田からオーストラリア3都市へ（シドニー、メルボルン、ブリスベン）直行便を運航する。オーストラリアの航空会社として、オーストラリアの国内線ネットワークが充実しており、オーストラリア各地へアクセスできるのが強みだ。

### 乗り継ぎが便利なメルボルン
### 充実の国内線、タスマニアへも

カンタス航空の成田―メルボルン線は、成田を夜に出発、メルボルンへは翌朝到着の効率の良いスケジュール。メルボルンから、カンタス航空の国内線ネットワークを使って、オーストラリア各地へ行くことができる。

メルボルン空港は、国際線ターミナルと国内線ターミナルが隣接しており、バスなどを使わずにターミナル間を移動できるのが便利。特に、メルボルンからタスマニアへは、3都市へ運航、また南オーストラリア州アデレード、西オーストラリア州パースへの乗り継ぎもスムーズだ。




### 羽田―シドニー線、成田―ブリスベン線
### 広がる周遊旅行のバリエーション、お得な運賃も

カンタス航空は、成田―メルボルン線のほかにも、羽田―シドニー線と成田―ブリスベン線を運航、シドニーとブリスベンを発着する国内線も充実しているので、日本からの3路線と国内線を組み合わせれば、往復で異なる路線を利用したり、オープンジョーやサークルトリップが可能となったり、周遊旅行のバリエーションが広がる。

そんなカンタス航空のネットワークをフルに活用できるのが割引運賃「スーパーカンガルー」だ。お得な料金だけでなく、1年間の有効期間、片道や出発当日までの購入、変更、往復で異なる運賃の組み合わせなど、使い勝手が良いのが特徴。東京をはじめ日本国内28地点からの設定があり（日本航空およびジェットスター・ジャパンの日本国内線を利用）、追加料金でオーストラリア各地へリーズナブルに行ける点も利便性が高い。

また、周遊旅行に便利なのが「ウォークアバウト・パス」。オーストラリア国内20都市以上を1区間から利用可能な周遊運賃で、「スーパーカンガルー」と組み合わせれば、さまざまな旅程に対応できる。

### 成田―メルボルン線の機内サービス（A330型機）

## ビジネスクラス　Business Class

### 「ビジネススイート」で快適

機内でくつろげるパジャマがリニューアル

すべての座席が通路側に面しており、離陸から着陸まで、就寝用のマットレスをつけたままリクライニングできるので、たっぷりと睡眠をとることができる。また各座席には、機内エンターテイメントが楽しめる大型モニタやアダプタ不要のAC電源を搭載。空港ラウンジの利用や専用チェックインカウンター、優先搭乗や手荷物の優先受け取りなど、出発前から到着後まで、充実のサービスを受けられる。

### オーストラリアにこだわった
### 機内食とワイン

機内食のメニューを手掛けるのは、オーストラリアの人気シェフ、ニール・ペリー氏。世界各地の料理のエッセンスを取り入れ、新鮮な食材にこだわった「モダン・オーストラリア料理」のメニューを味わいたい。また、事前注文サービス「Select on Q-Eat」*で好みのメニューを選択することも可能。日本からのフライトは夜発となるので、希望の時間にサービス、ワントレイのエクスプレスミールもあるほか、食事を取らずにゆっくりと睡眠をとることもできる。ルームサービス形式の朝食も好評だ。

機内食の一例

*ホームページ qantas.com の「Manage Your Booking」（英語サイト）より、出発の7日前から12時間前までの受付

世界的にも有名なオーストラリアのワイン。カンタス航空は、オーストラリアを代表するレストラン、ロックプール・グループのソムリエとバーテンダーによる総勢16名の「カンタス・ロックプール・ソムリエ」を結成、同ソムリエチームが機内及び空港ラウンジで提供するワインやシャンパン、スピリッツなどの飲み物全般の選定を行っている。

専任ソムリエがオーストラリアのワインを厳選

毎年1200種ものオーストラリアワインとシャンパンからセレクト。一部のフレンチシャンパンとニュージーランド産ワインを除き、厳選したオーストラリアワインをサービスする。また客室乗務員も上級ソムリエ研修をはじめとする研修を受講、ワインの知識を深めている。

## エコノミークラス　Economy Class

### 最新鋭のスリムシートを採用

人間工学に基づいて設計された最新鋭のスリムシートは、シートピッチ（座席間隔）78.7センチ、座席幅44.5センチで、ヘッドレストに付く調節可能なウイングと座席部に埋め込まれている腰サポートで疲れを軽減、ゆとりある空間を提供する。各シートのモニターからはオンデマンドで機内エンターテイメントを楽しめるほか、希望者にはアイマスクや歯ブラシを配布。各シートの枕やブランケットはすべて無料で利用できる。

### ボリュームたっぷりの機内食
### ワインや飲み物はすべて無料

また機内食は、トレイを廃止したことで、従来の1.5倍のボリュームに。メインのメニューは3種類から選択可能で、ヘルシーなメニューや日本路線では本格的な和食も味わえる。さらに事前注文サービス「Select on Q-Eat」*で、事前注文専用メニューも用意する。

*オーストラリア発便のみ

機内食の一例

エコノミークラスでもワインや飲み物はもちろん無料。本場のオーストラリアワインをミニボトルでサービスする。新鮮で安心なオーストラリアのジュースやデザートのサービスもうれしい。

さらにオーストラリア国内線のフライト（B737型機、A330型機）では、2017年中盤より無料で利用できる機内Wi-Fiサービスの提供を予定しており、2018年中を目処に、すべての対象機材への導入を完了する計画だ。

### 旅のスタイルガイド
**役立つ情報満載!**

http://style.qantas.jp

カンタス航空の旅行情報サイト「旅のスタイルガイド」は、商品造成に役立つ情報がいっぱい。各州観光局による豊富なコンテンツは要チェック。新たな旅の提案のヒントに、ぜひブックマークに登録して活用したい。

TOKYO ✈ MELBOURNE CAFE
メルボルンへは、カンタス航空で。
成田－メルボルン直行便 12月16日就航*。
QANTAS
Spirit of Australia
oneworld
*スケジュールは予告なく変更になる場合があります。